

(一社) 日本保健物理学会賞受賞候補 評価項目

【論文賞】

1. 課題や内容の妥当性 (学術的・技術的な寄与、プロセス及び努力の程度、成果) : 研究開発のみならず管理実務への応用の観点も含めて、課題や内容 (学術的・技術的な寄与、プロセス及び努力の程度、成果) がいかに妥当で価値を有するものであるか評価する。
例) 課題や内容が新しい知見等も踏まえて極めて妥当で且つ有効な価値を有する、既存の知見等と比べて著者としての新たな寄与が見られ課題や内容が妥当など。
2. 論文の独創性・新規性 : 候補者の論文等の独創性・新規性に関して評価する。
例) 研究開発のみならず管理実務への応用の観点も含めて極めて独創性及び新規性に富む、新しい発想や着眼点が見られる、既存のアイデア等を発展させているなど。
3. その他 (特筆する事項) 時宜を得た重要性・実用面での有用性 : いかに実用性が高くタイムリーな成果であるかを評価する。
例) 国内外の外部動向を把握し、研究成果がタイムリーかつ適切に実用に供された、もしくは供される見込みがある、実用に供された場合のインパクトが大きいなど。

【奨励賞】

1. 成果 : 対象となる論文等の新規性、有効性等の成果を評価する (論文等や学会資料の筆頭著者である必要はないが、口頭発表では演者とする)。
例) 対象となる論文等の成果が極めて新しい発想やアイデアに基づいており、また有効と思われる、既存の知見等と比べて新たな寄与が見られ成果の活用が期待される、既存のアイデアに基づくなど。なお、本成果に関連する過去の学会誌 (保健物理や他学会誌) への発表がある場合には、その成果も参考とする。
2. 将来性 : 成果が将来の放射線防護の研究開発及び管理実務等に与える影響、及び保健物理分野または保健物理学会に期待される貢献を評価する。
例) 放射線防護の研究開発及び管理実務等に大きな影響や効果を及ぼす、放射線防護の特定の分野で成果が有効に活用 (反映) できる、今後の応用研究等が期待できるなど。
3. 学会活動 : 学会での委員会及び専門研究会等の活動状況、保健物理分野での活動状況を評価する。

【貢献賞】

1. 貢献度(重要性、有効性及び学会活動への貢献)についての評価

主な対象分野別の評価項目例)

- (1) 重要性(保健物理分野の研究開発、教育、放射線管理、現場実務等における業績の重要度)
- (2) 有効性(当該業績が保健物理分野へ貢献した程度)
- (3) 学会活動への貢献(当該活動が学会に貢献を果たした程度、活動の期間や特殊性、積極性)

2. その他の特記事項

【啓発賞】

1. 成果：技術的及び社会的観点から、業務や活動内容の有効性・波及効果・堅実性を評価する。

例) 保健物理分野の研究開発、教育、放射線管理、現場実務等を通じて着実に学術・技術成果を生み出し、積極的に国内外に発信した。現場業務に係る課題解決(手法、システム等)に尽力して、広く現場への実装・展開を成し遂げた。地域社会等において、保健物理や放射線防護の理解啓発に資する活動を継続的に行った。

2. 学会との関連性：当該実績に関する保健物理学会内での活動(論文・学会発表、専門研究会活動など)や認知の程度を評価する。

3. その他の特記事項

以上